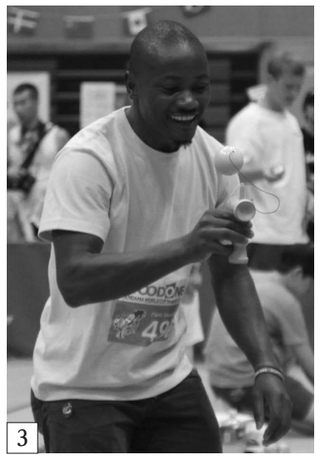
1

2


3

4

5

6

廿日市市 市制施行30周年記念

WOODONE KENDAMA WORLD CUP Hatsukaichi 2018

ウッドワンけん玉ワールドカップ廿日市2018

主催：(一社)グローバルけん玉ネットワーク／けん玉ワールドカップ廿日市実行委員会

問い合わせ　産業振興課☎㉚9140

けん玉の魅力が濃縮された2日間

7月21日、22日、廿日市市スポーツセンターサンチェリーで「ウッドワンけん玉ワールドカップ廿日市2018」が開催された。今年で5回目となる今大会。けん玉をさらに世界に広めようと、けん玉があまり浸透していない南米・アフリカの選手を、インターネットなどで広く資金を募る「クラウドファンディング」で招待し、18の国と地域から過去最多の415人が出場した。

21日に予選が行われ、上位となった36人が22日の決勝に進出した。決勝では、世界レベルの高度なテクニックが次々と繰り広げられ、難易度の高い技が決まるたびに歓声が上がり、会場は興奮の渦に包まれた。

世界一に輝いたのは、アメリカワシントン州出身のニック・ギャラガーさん。ギャラガーさんは「決勝に日本人が19人もいて気後れしたが、アメリカと所属するチームのために世界一の大会で優勝することができ、嬉しい。廿日市市が、一生忘れることのできないまちになった」と話した。広島県勢からは、乗岡信吉（のりおかしんきち）さん（16歳・広島市佐伯区）が5位に、金本爽真（かねもとそうま）さん（15歳・広島市佐伯区）が7位に入賞した。金本さんは「今年は技の難易度や周りのレベルが高かった。今までは緊張して震えることもあったが、今日はリラックスでき、去年よりも順位を上げるという目標を達成できた。来年はもちろん優勝したいが、来年も今までの自分を超えることを目標にして練習を積み重ねていきたい」と話した。

会場内には、けん玉ショップや木製玩具に触れる遊び場など、「木のまちはつかいち」ならではのブースが設けられ、親子連れなど多くの人が楽しんだ。

2日間で約4万9千人の観客が訪れ、多くの歓声と熱気に包まれた廿日市市。木のまち・けん玉発祥の地にふさわしい2日間となった。

1 _7位に入賞した金本爽真さん。2 _けん玉ミニゲームの様子。3 _アフリカ大陸代表のフラービオ・マカリンゲさん。4 _難易度の高い技が繰り出されると、観客からは惜しみない拍手が送られた。5 _市内の小中学生が日頃の練習の成果をステージで披露。6 _優勝したニック・ギャラガーさん（18歳・アメリカ）。7 _開会式では平成30年7月豪雨災害で犠牲となった人々に黙祷が捧げられた。会場に義援金募金箱や支援物資を募るブースが設置され、集まった20万1370円と水や食料などが被災地に寄付された。8 _会場内で販売されるけん玉グッズを買い求める人が多く見られた。

8

7

9 _3人1組で行う予選。100ある技から5つを選び、制限時間内に成功した技の合計点を競った。ハイタッチを交わして互いの健闘をたたえ合う。10_予選を戦う仲間に観戦エリアから声援を送る。11_妙技で観客を魅了。12_先着300人に吉和産の新鮮なほうれんそうが配布された。13_足場板を再利用して作られたアスレチック（通称アシバチック）。14_宮島工業高等学校自動車部が製作した木製電車。15_広島西部木材同業組合と広島県西部木材青年協議会が設けた木を使った遊び場は、多くの子どもでにぎわった。16_優勝したギャラガーさんが過去最高得点を出すと、会場の興奮は最高潮に達した。

13

12

9

11

10

15

14

16